

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月17日午前 1/2

会場	Leo Esaki メインホール	101	中ホール200	201A	201B	202A	202B	
開始時刻	S1 林学史	S8 地域の森と暮らし	S7 樹木の環境適応				T2 保健休養	T3 森林の放射能
9:00	S1-1 見えてぬ夢：経験主義・現場主義に根差した多様な森林施策の成立 大住克博（大阪市立自然史博物館）	S8-1 地域の森林を活かしたこれからの暮らし：徳地直子（京都大学）	S7-1 近年分かってきたダケカンパの生態と環境適応研究の意義：相原隆典（筑波大学）				T2-1 発表取り消し	T3-1 縮望説明
	S1-2 抽象化・普遍化の近代科学と黎明期の森林水文学：田中隆文（名古屋大学）	S8-2 官民連携で地域の価値を生み出す事業—多様なステークホルダーと森をひらく：松本剛（株式会社飛騨の森でクマは語る）	S7-2 異なる気候条件下におけるダケカンパの気孔密度とサイズの変化：横一面（東京大学）ら				T2-2 Potential of controlled natural tree regeneration (CNR) for urban forest management in Kampala, Uganda：キバラムマ-ビン ボグレ (Tokyo University of Agriculture) ら	T3-1 新空機モニタリングによる森林の放射性Cs沈着量の時間変化は何を示すか：金指芳（福島大学）ら
	S1-3 “林学”以前 — 近代学問の博学達達：三島美佐子（九州大学総合研究博物館）	S8-3 製材所が考える、木の文化と産業のあわい：及川幹（株式会社やまか製材会）	S7-3 共通園場におけるダケカンパの被食量と防御形質の集団間変異：双木寛人（東京大学大学院）ら				T2-3 内的作業モデルの対象としての風景（第2報）：尾崎勝彦（大阪公立大学）ら	T3-2 筑波山森林における表層土壌の交換性¹³⁷</SUP>Cs存在割合の変化：越川昌英（国立環境研究所）ら
9:45	S1-4 森林利用における技術革新：酒井秀夫（日本木質バイオマスエネルギー協会）	S8-4 官民連携で地域の価値を生み出す事業—多様なステークホルダーと森をひらく：井上彰（株式会社飛騨の森でクマは語る）	S7-4 How Environment and Provenance Shape Soil and Root Fungal Diversity in <i>Betula ermanii</i> : Insights for Forest Conservation：Aye Myat Myat Paing（東京大学）ら				経営1	討論・調整
10:00	S1-5 輸入学知・在来知のキメラとしての造園・ランドスケープ分野の展開と林学：水内佑輔（金沢大学）	S8-5 飛騨地域における林業利用の実容—森林資源は利用されているか：中津川桃太郎（京都大学）	S7-5 ダケカンパ産地試験地における萌芽特性と種子採取地の環境特性：室谷楓香（信州大学）ら	D-1 体積から表面積へ—コンパチブル幹表面積式：井上昭夫（近畿大学）	T2-4 ビル街の真ん中で森林浴：大手町の森が示す都市林の効力の解明：高山聡理（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	討論・調整		
10:15		S8-6 「環境ものさし」ではかる広葉樹林業の持続可能性：渡野倫史（京都大学）ら	S7-6 ダケカンパの萌芽様式と潜伏芽分布パターンの関係性：本間航介（新潟大学）ら	D-2 森林生態系多様性基礎調査を用いたスギ・ヒノキの地域別成長モデルの推定：高山新樹（京都大学）ら	T2-5 地域の森林を活用した森林療法の研修会の4事例：上原巖（東京農業大学）	T3-4 林床における落葉層の有無が広葉樹の放射性セシウム濃度を与える影響：山村充（国土防災技術株式会社）ら		
10:30		S8-7 広葉樹のまちづくりにおける市民参加—MSC手法を用いた評価の試み：時任美乃理（京都大学）ら			D-3 スギ—齊林の鉋直・水平競争と直径成長の比較：田中邦宏（国研）森林総合研究所 関西支所）	討論・調整	T3-5 落葉除去による森林表流域の水質形成及び ¹³⁷ Cs流出機構の解明：永田祐太郎（筑波大学）ら	
10:45		S8-8 飛騨市出身者を対象としたアンケート調査から聞こえてきたこと：法理樹里（農林水産省 農林水産政策研究所）		林政1	討論・調整		T3-6 安定同位体セシウムを用いたヒノキ林の放射性Cs循環解析：坂下涉（森林総合研究所）ら	
11:00			A-1 阿蘇地域の草原が辿った森林への変遷過程：八巻一成（森林総合研究所）ら		D-4 全天球カメラによる林内計測手法の開発：金森匠彦（一般社団法人日本森林技術協会）		T3-7 福島県の森林における野外 fallout 核種 Cs の移行と蓄積：渡邊未来（国立環境研究所）ら	
11:15			A-2 京都大学上賀茂試験地の移転に京都府と京都軍政部はどのように関わったのか：坂野上なお（京都大学）		D-5 ドローンとAIを活用した上田市の森林境界明瞭化と林相タイプ別区分：原佳輝（精密林業計測株式会社）ら		討論・調整	
11:30			A-3 日本の森林政策の非民主化：軍部の視点から：熊谷千代子（東京大学）ら		D-6 U A V レーザ計測と地上調査の併用による森林計測の有効性：千葉幸弘（日本森林業振興会）		ポスター紹介	
11:45			討論・調整		討論・調整		ポスター紹介	
12:00								
12:15								
12:30								
12:45								
13:00								
13:15								
13:30								
13:45								

ポスター発表のコアタイム（対面会場）

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月17日午前 2/2

会場	中ホール300	303	304	402	404	405	406
開始時刻	S10 林野公共のあり方	S6 生理部門シンポ	S12 さし木の根系	委員会等		S9 大船渡林野火災	T6 デジタルツイン
9:00	S10-1 「林野公共事業を問う」ことの現代的意義と研究課題：佐藤宣子（九州大学）	S6-1 ユーカリから卒業されたアルミニウム無毒化タンニンの生成成機構の解明：山満千尋（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	S12-1 挿し木不定根誘導シグナルと育成環境に基づいた不定根誘導メカニズム：渡辺敦史（九州大学大学院）			S9-1 林野大災害後の樹幹火傷調査と森林変化の長期モニタリング：峠嘉哉（京都大学）ら	T6-1 フォレストデジタルツイン構築に向けた VTOL による広域森林計測：瀬誠志郎（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
9:15	S10-2 日本全土の過去37年間における皆伐・再造林状況と天然林豊稔構造の変化：数重涼子（九州大学）ら	S6-2 樹木生理学と環境造林：小島克己（東京大学）	S12-2 土砂災害防止機能発揮に向けたスギ挿し木品種における根系構造の理解：吉村知也（九州大学大学院）ら			S9-2 大船渡市林野火災の復旧に向けた岩手県の取組：菊地明子（岩手県）	T6-2 非皆伐林分における新たな計測技術の提案：趙晨（ジオサーフ株式会社）ら
9:30	S10-3 豪雨による表層崩壊の発生要因に保安林制度が与える影響：金子敬平（九州大学）ら		S12-3 近年九州地方で発生した斜面崩壊と森林による崩壊土砂制御の事例：水野秀明（九州大学）			S9-3 林床可燃物が燃焼強度に及ぼす影響と林野大災害の影響評価に向けた取り組み：吉藤奈津子（国研）森林研究・整備機構）ら	T6-3 下層木損傷最小化のための伐倒作業：大塚大（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら
9:45	S10-4 地域森林計画や届出情報に基づく全国および東北地方の伐採や造林の状況：富山啓介（岩手大学）ら		S12-4 センダンの離れた根の機能：樹齢にともなう根系変化と根ざし増殖の可能性：向井伸生（宮崎県林業技術センター）			S9-4 大規模林野火災による林木被害の形態と火災後の植生回復：酒井敦（森林総合研究所東北支所）ら	討論・調整
10:00	S10-5 地域森林計画別に見た戦後造林の人工林前主産生：上野竜大生（九州大学大学院 生物資源環境科学府）ら					S9-5 林野火災が土砂流出と植生に及ぼす影響：松本一穂（岩手大学）ら	T6-4 TLS計測から構築したQSMによる森林光環境シミュレーション：飯屋園純平（東京大学）ら
10:15	S10-6 我が国の林業機械化の何が失敗だったのか？－雄勝地方の皆伐地を事例として：吉村哲彦（鳥根大学）ら					S9-6 林野火災が森林生態系の物質循環に与える影響：五十嵐康記（筑波大学）ら	T6-5 高性能サーバーを用いた大規模点群処理による樹木解析：飯倉謙太（ImVisionLabs株式会社）ら
10:30	S10-7 流域の森林変化がダム堆砂量に及ぼす影響：蔵治光一郎（東京大学）ら					S9-7 火災後の生態学的記憶と森林管理 一土壌微生物相が示す復元力―：上村真由子（日本大学）ら	T6-6 林野事業補助金のデジタル申請・検査情報のデジタルツインへの活用戦略：高橋正義（森林総合研究所）
10:45	S10-8 北海道十勝地域における造林補助金の展開構造：尾分達也（北海道大学大学院農学研究院）						討論・調整
11:00						T6-7 4D FMCW LiDARを使った3D環境地図の構築：西川祐矢（ジオサーフ株式会社）ら	
11:15						T6-8 3D地形データを搭載したゲーム機型ハーフスタシミュレータ開発の試み：和田陽一（エアロトヨタ株式会社）	
11:30						討論・調整	
11:45							
12:00	学会企画1			日誌 編集委員会			
12:15							
12:30	ランチョンミーティング 「囲りごとを共有しよう！Part2」 ※12：00開始						
12:45							
13:00							
13:15							
13:30							
13:45							

ポスター発表のコアタイム（対面会場）

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月17日午後 1/2

会場	Leo Esaki メインホール	101	中ホール200	201A	201B	202A	202B
開始時刻	T4 総合学・原論	S13 環境森林生理生態	S14 林内ドローン開発	林設2	経営2	S15 森林教育の発展	T5 樹木根
14:15	T4-1 総合学・原論としての森林科学の射影と可能性：平野悠一郎（森林総合研究所）	S13-1 変動環境下におけるカラマツの共生菌類の役割：小池孝良（北海道大学）ら	S14-1 森林内ドローン飛行の動向と森林分野での応用：加藤順（千葉大学）	A-4 2020年国勢調査が示す林家世帯の特徴：林宇一（宇都宮大学）ら	D-7 2機種モバイルレーザースキャナの精度比較：辰巳貢一（京都大学大学院）ら	S15-1 幼児の遊びを支える身近な樹木と木のおもちゃ：吉澤千夏（上越教育大学）	題目説明
14:30	T4-2 19世紀ドイツの国家学における林政学と憲法理論の交錯とその現代への示唆：山岸健一（林業経済研究所）	S13-2 森林におけるテルベン挥发出の季節性と生育環境履歴の関係性：増井昇（静岡県立大学）ら	S14-2 小型放射線計による森林内の放射線量分布の解析：田中博幸（公益財団法人日本分析センター）ら	A-5 森林センサスに見る林家の農業活動：芳賀大地（鳥取大学）ら	D-8 近自然型林業におけるバックパケット型LiDARを用いた森林調査の試み：岸本光樹（東京大学）ら	S15-2 小学校高学年を対象とした生物多様性への関心を育む教材の開発について：杉野卓也（公益社団法人日本山学会）	T5-1 磯原砂嘴海岸に生育するクロマツの根系構造：平野恭弘（名古屋大学）ら
14:45	T4-3 明治後期における「学校樹林」関連規定 一県制令を中心に：田中千賀子（立教大学）ら	S13-3 日本の都市環境で樹木光合成にオゾン影響が検出されにくいのは何故か：久米薫（九州大学）ら	S14-3 林内ドローンLiDARの優位性とデータ特性：山田誠太郎（千葉大学大学院）ら	A-6 森林センサスにみる退出・参入した林業経営体の農業経営：多田忠義（農林水産省）ら	D-9 地形を用いた多時期TLSデータ的位置合わせに関する検討：伊藤小太郎（名古屋大学）ら	S15-3 国立青少年教育施設における地域資源を活用した森林環境教育の実践：坂本純一（国立宮間青少年自然の家）	T5-2 曲げストレスがクロマツの幹及び根の肥大成長に及ぼす影響：藤田早紀（森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
15:00	討論・調整	S13-4 スギとヒノキのガス交換特性の鉛直分布が林冠光合成と蒸散に与える影響：渡辺誠（東京農工大学）ら	S14-4 森林内飛行を可能にするドローン障害物検知システムの開発：野田健介（東京工科大学）ら	A-7 森林センサスと国勢調査の林業従事者データ分析：田中互（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	討論・調整	S15-4 冬季の野外活動を経験したろう・難聴の中学生が冬の森に感じる魅力：針ヶ谷聖子（ろう・難聴児の体験活動を支える会）	T5-3 東日本大震災14年後の海岸クロマツにおける外生菌根の群集構造と樹木活性：潮川あすか（三重大学）ら
15:15	T4-4 樹医学の系譜に関する試論：藤藤原生（東京大学）	S13-5 日内変動を補正した樹液流速に基づくスギ林の林冠コンタクト数の推定：田中亮志（東京農工大学）ら	S14-5 森林内ドローンの自律飛行と今後の展開：鈴木智（千葉大学）	A-8 森林センサスにみる林業作業受託・立木買い経営体の時系列分析：細藤野正也（福島大学）ら	D-10 北方林における景観スケールでの平均林冠高と林冠粗度の関係：細田理仁（北海道大学）ら	S15-5 野外教育の場としての森林の役割：高橋達也（筑波大学）ら	討論・調整
15:30	T4-5 樹木学の普及と日本人の自然信仰との関係：樹木に関わる習俗の歴史的変遷：小室駿（東京農工大学）ら	S13-6 日本海側の変動する大気汚染に対するスギ森林集水域の応答：2002-2025：佐藤裕之（アジア大気汚染研究センター）ら		討論・調整	D-11 スギ・ヒノキ高密度林分におけるSHM点群データを用いた単木検出：山本啓（広島県立総合技術研究所）ら	S15-6 子育て世代の森林に対する認識の解明：つくば市の効果的な森林活動に向けて：渡邊仁（筑波大学）ら	T5-4 降雨・斜面崩壊メカニズムと樹木根系の役割：スケールの視点から：五味高志（名古屋大学）ら
15:45	T4-6 昭和初期の施策計画資料からみた神社林の保全と森林施業－奈良県を事例に－：舟橋知生（竹中大工道具館）	S13-7 熱帯林樹木の樹高に伴う葉の生理生態的特性の定量化：田中重蔵（国際農林水産業研究センター）		A-9 木材生産をめぐる取引構造と山林仲介者の位置付け：佐藤大真（鹿児島大学）ら	D-12 ALSデータを活用した樹高成長曲線式の精度検証：大矢信次郎（長野県森林総合センター）	S15-7 森林教育活動を進める上での課題と支援策：寺嶋嘉寿（一般社団法人日本森林インストラクター協会）	T5-5 中間温帯針広混交林における24樹種の吸水深度推定：勝浦純（国際農林水産業研究センター）ら
16:00	討論・調整			A-10 林業事業体における立木の大型化への対応：松本英吾（高知大学）	D-13 競争指数を組み込んだ森林構造モデルによるDBH推定精度の評価：江口剛和（人間環境大学）ら		T5-6 山岳域における樹木根系の水獲得戦略：水フลักスと根現存量からの探求：増本奈河（信州大学）ら
16:15	T4-7 池田真次郎の日本型ワイルドライフ・マネジメント思想と猟区制度構想：古賀達也（森林総合研究所）ら			A-11 高性能林業機械のレンタル・リースの現状：齊藤まど佳（東京農業大学）ら	討論・調整		討論・調整
16:30	T4-8 森林の風土と文化の調和－日本の木竹草の共生を中心に－：若松文代（北九州市立大学）			討論・調整	D-14 ドローンとAIによる森林資源量の自動解析プログラムの開発：原鏡（精密林業計測株式会社）ら		T5-7 森林調査における枯死樹判定の難しさを無く：大橋瑞江（兵庫県立大学）ら
16:45	T4-9 発表取り消し			A-12 南九州における木材産業の外国雇用：滝沢裕子（鹿児島大学）ら	D-15 航空レーザ計測データを用いた林内下層植生被率の推定：藤井耕一郎（アジア航測株式会社）ら		T5-8 森林における細根のフェノロジーと生産量の評価のための画像解析技術：福澤加里部（北海道大学）ら
17:00	討論・調整			A-13 地域林業における持続可能な労働力確保に向けた新規就業者の定着要因分析：張容（早稲田大学）ら	D-16 YOLO-SegにDCHM特徴量を適用した針葉樹樹冠の抽出：曾田森羅（鳥取大学）		T5-9 モックワケテクルで考える輪生産量と土壌呼吸の関連性：久米朋宣（九州大学大学院）
17:15	T4-10 流域によみえる人と森林の新たな関係：山本実穂（宇都宮大学）ら			討論・調整	討論・調整	教育1	討論・調整
17:30	T4-11 岡山県のため池と森林－勝谷穂氏の言説に着目して－：古井芦宏通（東京大学）ら					C-1 身近な樹木を活用した保育者養成校での木育：遠藤知里（常葉大学短期大学部）	総合討論
17:45	T4-12 森林の持つ両義性：寺下太郎（愛媛大学大学院）					C-2 学生を対象とした砂防えん堤モデル実験の改良と授業実践：東原貴志（上越教育大学）ら	
18:00	T4-13 価値多元主義と社会生態システム論に基づく森林価値ダイアログカードの提案：太田和彦（南山大学）					C-3 森のお話はどこから来る？－絵本の作者と時代の視点から－：杉浦克明（日本大学）ら	
18:15	討論・調整					討論・調整	
18:30							
18:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月17日午後 2/2

会場	中ホール300	303	304	402	404	405	406
開始時刻	T1 生物多様性保全	S4 熱帯林業応用策	S11 持続的な発電事業		特用林産	防災・水文1	T7 ネットゼロ森林
14:15	場旨説明	S4-1 Enhancing resilience to tropical timber species in terms of species distribution model：津山幾太郎（森林総合研究所北海道支所）ら	S11-1 富毛市における地域社会に根差したバイオマス発電事業の構築：永野正朗（株式会社グリーン・エネルギー研究所）		N-1 気候変動に伴うマツタケ発生期間の変化-約半世紀の調査結果から：古川仁（長野県林業総合センター）ら	N-1 鉛直流と傾斜方向流の違いを流出応答と湧水温形成の観点から考える：谷誠（京都大学）	T7-1 森林管理シミュレーターを用いた森林生態系における材収支の評価：酒井考夫（森林総合研究所）ら
14:30	T1-1 非保護区での鳥類の減少：17年間の全国での繁殖期と越冬期のモニタリング：河村和洋（森林総合研究所）ら	S4-2 インドネシアの有用林業樹の遺伝的起源と温暖化後の将来の森林材の推定：津村義彦（筑波大学）ら	S11-2 エフビットコミュニケーションズ（株）の取り組み：谷脇勝久（エフビットコミュニケーションズ（株））		N-2 松茸の成育環境における土壌表面の改良：奥田 登ソノダノボル（八木町マツタケ生産振興会）ら	J-2 山地森林流域の流出平準化機能を決める要因の推定：棚山貴樹（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	T7-2 高分解能炭素シミュレーターを用いた日本の森林のNBP推定の試み：小南祐志（森林総合研究所）ら
14:45	T1-2 気候変動下の海岸林枯死と生態サービスの経済評価：大森結衣（京都大学）	S4-3 Eco-physiological approach to identify resilience of tropical timber species：河合清定（国際農林水産業研究センター）ら	S11-3 木質バイオマス発電の現状と事業継続性に関する考察：佐藤政宗（株式会社森のエネルギー研究所）		N-3 マツタケ胞子の接種方法の検討：藤田徹（京都府農林水産技術センター）	J-3 斜面観測から推定される降雨から流出への変換メカニズムとそのモデル化：小島永裕（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）ら	T7-3 マツ枯れによる森林擾乱が引き起こす炭素損失リスクの全国評価：平田晶子（森林総合研究所）ら
15:00	T1-3 日本の人工林における鳥類多様性保全：分布モデルと林分経済価値からの考察：山浦悠一（森林総合研究所）ら	S4-4 Transcriptome approach to identify resilience of tropical timber species：SudarnonwatiEnny（National Research Innovation Agency）ら			討論・調整	討論・調整	討論・調整
15:15	討論・調整	S4-5 Enhancing Resilience to Tropical Timber species Using Genomic Selection Model：MeinataAlnus（University of Tsukuba）ら			N-4 マツタケ感染症を移植した模擬伐採跡地におけるマツタケDNAの面的分布：成松貴樹（岩手県林業技術センター）ら	J-4 林地における水資源涵養量（貯留機能）の簡易評価手法：大野亮一（国土防災技術株式会社）ら	T7-4 主伐を伴う人工林の炭素の固定期間に基づくクレジット発行方法の検討：佐藤雅生（東京農工大学）ら
15:30	T1-4 スギを移植したのに広葉樹林になるのはどのような場所か—山形県北部の例—：野口麻穂子（森林総合研究所東北支所）ら	S4-6 Implementation in tropical forestry through mass propagation of selected individuals and superior trees：山岸裕介（住友林業株式会社）ら	T8 調和的な水エネ利用		N-5 原木シイタケホダ場における有効積算温度の人工衛星からの推定：川本啓史郎（長崎県農林技術開発センター）ら	J-5 流域スケールでの流木の発生・滞留・流出条件を考慮した流出特性の評価：中島啓太（名古屋大学）ら	T7-5 材分と木材製品の蓄積変化および代替効果を考慮した炭素収支推定長期評価：岡梅奈（森林総合研究所）ら
15:45	T1-5 王子ホールディングスの保持林家への取り組み：豊島悠哉（王子マネジメントオフィス株式会社）ら	S4-7 林木育種や林業施策が生態系機能に及ぼす影響：土壌GHG動態の観点から：近藤俊明（国際農林水産業研究センター）ら	場旨説明		討論・調整	J-6 花崗岩基岩に貫入したドレイト岩脈が山地流域の流出過程に与える影響：平尾耀惟（信州大学）ら	T7-6 伐採木材製品による炭素貯蔵効果の将来推計に係る木材需要シナリオの検討：森井拓哉（森林総合研究所）ら
16:00	T1-6 保持林業および類似する実践事例の収集：山中聡（森林総合研究所）ら	S4-8 Sustainable Use of Forest Resources and Improvements in Livelihoods for Forestry Farmers：TrianaNovelia（Nagasaki University）	T8-1 地域産ヤナギ類によるバイオマス発電所向け薪材生産の試み：園子光太郎（富山県農林水産総合技術センター森林研究所）ら		討論・調整	T7-7 伐採木材製品の炭素貯蔵量推計にむけた建築物の寿命解析：加用千裕（東京農工大学）ら	
16:15	討論・調整	S4-9 Achievement of nationally determined contributions (NDCs) and adaptation plan in Indonesian LULUCF sector：Widiyatno（Universitas Gadjah Mada）ら	T8-2 山岳地域道路規格を考慮した未利用材利用可能量推計：有賀一広（宇都宮大学）		J-7 斜面形状が降雨流出ピークに及ぼす影響に関する数値シミュレーション：小杉賢一朗（京都大学）	討論・調整	
16:30			T8-3 木質バイオマス燃料及びバイオ炭の国際標準化の動向と課題：吉田貴敏（国立研究開発法人森林研究・整備機構）		J-8 森林流域における地表面および基岩面地形から見た集水構造と流出の関係：棚山正則（京都府立大学）ら		
16:45			討論・調整		J-9 風化岩盤内の地下水位観測による流域貯留機能評価：猪越翔大（名古屋大学大学院）ら		
17:00			T8-4 製材工場の木材乾燥エネルギーについて：久保山裕史（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら		J-10 Measurement and modelling of the late winter snow depth over Mt Dairoku in central Hokkaido：ChandratilakeThilakawansa（THE UNIVERSITY OF TOKYO）ら		
17:15			T8-5 真庭地域における林業クラスターを基盤とするバイオマス利活用システム：澤田直美（真庭バイオマス発電株式会社）ら		討論・調整		
17:30			T8-6 環境・社会・経済のバランスがとれた木質バイオマスエネルギー利用の論点：横田康裕（森林総合研究所）				
17:45			討論・調整				
18:00							
18:15							
18:30							
18:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月18日午前 1/2

会場	Leo Esaki メインホール	101	中ホール200	201A	201B	202A	202B
開始時刻	S2 森林サービス産業	立地	造林1	林設3	経営3	風致・観光1	動物・昆虫1
9:00	S2-1 マレットゴルフによる森林の継続的利用：三木敦朗（信州大学）	I-1 スギヒノキ人工林における斜面位置による土壌温室効果ガスフラックス特性：阪田匡司（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	E-1 立山のスギ巨木のサイズと樹形一樹形から灌漑期の森林利用を読み解くー：杉田久志（富山県立山カルデラ砂防博物館）ら	A-14 低等級木材の有効利用による家具の新たな価値創造：炭素固定効果の算出：徳永友花（東京大学大学院農学生命科学研究科）ら	D-17 北海道・道東地域を対象とした森林計測と樹種判別 ①計測と点群解析：矢口慎（株式会社かたばみ）ら	B-1 発表取り消し	L-1 クマ剥ぎ対策としての塗布型忌避剤の効果：柳澤賢一（長野県林業総合センター）ら
9:15	S2-2 森のようちえんの森林利用：丹羽美之（京都先端科学大学）	I-2 高山低木本植物の形態を介した栄養獲得戦略：異なる置根タイプ間の比較：廣田竜之介（信州大学大学院）ら	E-2 Relative stress on a tree stem in even and uneven-aged forests in Slovenia：上村佳奈（信州大学）ら	A-15 わが国における梱包材製材の展開：嶋瀬拓也（森林総合研究所）	D-18 北海道・道東地域を対象とした森林計測と樹種判別 ②分類精度の評価：越方誠二郎（鹿島建設株式会社）ら	B-2 Which Pathways lead to Higher Collaboration Satisfaction?: Social Network and tsQCA Study for Minami-Alps EcoPark：王奕寧（東京大学）ら	L-2 道産的多様性指標に基づくツキノワグマ地域集団の評価と保護管理への検討：小井土薫々子（京都大学）ら
9:30	S2-3 都市に残された里山が創発する多元的活動：藤田勘人（徳島大学）	I-3 土壤微生物群集の深度方向の変化と窒素・炭素無機化速度との関係：中山理智（岡山大学）ら	E-3 石狩川源流地域における風倒後70年間の林分推移：瀧井武（森林総合研究所）ら	A-16 培殖用薪の生産流通構造：清水貴（鹿児島大学）ら	D-19 ALOS-2フルポリメトリデータを用いた複数樹種の樹高推定：堀井翔宇（東京ガス株式会社）	B-3 文献調査からみる国立公園の利用史と今後の展望：小山峻（東京農業大学）	L-3 信州伊那谷におけるツキノワグマ <i>Ursus thibetanus</i> の機能的適応性評価：松本拓馬（筑波大学）ら
9:45	S2-4 関係性価値の観点から考える森林サービス産業と多様な森林利用：山本信次（岩手大学）	I-4 常陸太田試験地における皆伐後の要素動態の経年変化：藤橋祐星（京都大学大学院）ら	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整
10:00	S2-5 無住化集落における人と「ヤマ」との関わり：岡田航（尚絅学院大学）	I-5 Regional Drivers of Stream Nitrate in Forested Watersheds of Kyushu Main Island：MaungNay Lin（Kyoto University）ら	E-4 ハイブリッド型苗木生産システムによるカラマツ苗木の植林後の生育評価：清田陽子（株式会社大林組）ら	A-17 庫山ボランティアの担い手となるシニアの人物像について：石山晴也（東京農業大学）	D-20 Assessing Forest Change in Ridge-to-reef Landscape of Solomon Islands using Multitemporal Satellite Data：BeuMclessey（新潟大学）ら	B-4 やんばる国立公園における入域料に関する支払意思額と規定要因：清水智文（名古屋大学）ら	L-4 2024年秋に鳥取県で大量捕獲されたツキノワグマの特徴：西低介（鳥取県林業試験場）
10:15		討論・調整	E-5 ハイブリッド育成苗木の成長予測モデル化手法の検討：下山真人（(株)大林組）ら	A-18 行動実存理論に基づく森林の多面的機能に資する森林所有者の管理行動の分析：三ツ井聡美（筑波大学）ら	D-21 Assessing Orthophoto Accuracy from Aerial Photographs through Various Image Scanning and Digital Acquisition Methods：Kyaw Win（Forestry and Forest Products Research Institute）ら	B-5 富士山来訪者管理戦略の現状と課題：寺嶋竜雄（静岡県立大学）	L-5 センサーカメラによるシカ捕獲の効果検証：岡田英樹（熊本県東北広域本部）ら
10:30			E-6 Changes in Soil Nitrogen Dynamics after Clearcutting and Reforestation at the Hitachi Ota Experimental Site：--（Kyoto University）ら	A-19 佐久地域におけるカラマツ林伐後の再造林促進要因の検討：岸野奏（東京大学大学院）ら	D-22 ドローンによる広葉樹林の3D単木樹型と樹種分類：荒井秀（精密林業計測株式会社）ら	B-6 統合モデルによる国立公園の経済評価：ビッグデータとWebアンケートの分析：栗山浩一（京都大学）ら	L-6 白山におけるニホンジカの侵入状況調査2025年—自動撮影カメラと食痕調査—：近藤壮太（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら
10:45			討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整
11:00			E-7 持続的な広葉樹林施業に取組む山形県置賜地方の共有林の事例：齋藤智之（森林総合研究所）ら	A-20 タンザニアにおける R E D D + 政策の進展—セーフガードに着目して：福岡崇（里田亜大）	D-23 広葉樹林におけるICTを活用したバイオマス資源量推計に関する研究：戸橋ななみ（芝浦工業大学）ら	B-7 公的地理情報を用いた登山道の魅力度や体力要求量の可視化：松浦俊也（（国研）森林研究・整備機構森林総合研究所）	L-7 EPN共生細菌の散布によるマツ材線虫病予防効果の検証に向けた予備試験：小澤壮太（国立研究開発法人森林研究・整備機構）ら
11:15			E-8 鳥取県におけるスギ特定苗木植栽1年目の成長：赤井広野（鳥取県林業試験場）	A-21 防食層による林業被害軽減の現状と課題：垂水重紀（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所四国支部）ら	D-24 造林補助の利害不一致のもとで目標供給量を満たす木材生産林の分布と面積：守口海（信州大学）ら	B-8 登山道維持管理における登山道台帳の必要性：大宮徹（NPO法人 富山県自然保護協会）ら	L-8 マツノマダラカミキリに有効なRNAi農薬の開発に向けて：柄野巴瑛（森林総合研究所）ら
11:30			E-9 北海道東部における天然林択伐施業地の長期動態：吉田俊也（北海道大学）	A-22 航空レーザ計測データを用いた森林GISによる林業収益性の可視化：金山和広（元京都大学）ら	D-25 近自然型林業における選木方法の国際比較：北海道とスロベニアでの実践事例：小林徹行（東京大学北海道選抜習林）ら	B-9 野付風連道立自然公園の国定公園化に対する地域関係者・利用者の意識：栗甲哲也（北海道大学）ら	L-9 オオアカズヒラタハバチから検出された細胞内共生細菌ボルバキアについて：相川拓也（森林総合研究所）ら
11:45			討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整	討論・調整
12:00			ポスター発表のコアタイム（対面会場） 〔高校生ポスター：12:00-14:00〕 〔一般ポスター：13:00-14:00〕				
12:15							
12:30							
12:45							
13:00							
13:15							
13:30							
13:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月18日午前 2/2

会場	中ホール300	303	304	402	404	405	406
開始時刻	S3 フォレスター比較	遺伝・育種1	微生物1			防災・水文2	利用
9:00	S3-1 日本における現場フォレスターの認識：石崎涼子（森林総合研究所）ら	F-1 葉緑体DNAの変異と伝染性および形態に基づくオオズミの分類学的再検討：工藤舞泉（東京大学大学院）ら	M-1 山口県のスギ・ヒノキコンテナ苗で発生した病害：吉岡陸人（山口県農林総合技術センター）ら			J-11 地すべり斜面の拡大崩壊を引き起こした豪雨と地下水の観測事例：浅野志穂（（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	K-1 常陸太田試験地における作業道の土壌諸特性の経年変化：北原壮恭・浅野志穂（（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら
9:15	S3-2 台湾における現場フォレスターの認識：笹田敬太郎（（国研）森林総合研究所九州支所）	F-2 アモトミズナラの遺伝的変異の地理的変異：井上元貴（岐阜大学大学院）ら	M-2 スギとヒノキの苗立枯病から分岐されたFusarium属菌の病原性：市原優（森林総合研究所関西支所）ら			J-12 森林と豪雨災害に関する予備的検討：執印康祐（九州大学）	K-2 山岳地域の道路網での経路分析による道路視認区分を考慮した運搬効率の検討：鈴木保志（高知大学）ら
9:30	S3-3 インドにおける現場フォレスターの認識：大田真彦（長崎大学）	F-3 Ancient genetic contact between Korean and Japanese subalpine firs, Abies veitchii and A. koreana：WorthJames（国立研究開発法人森林総合研究所）	M-3 木材変色菌 Chalaropsis thielavioides のスギに対する病原性評価：升屋勇人（（国研）森林研究・整備機構）ら			J-13 力学モデルによる樹木質量の推定：島田宏行（宮小牧工業高等専門学校）ら	K-3 タワーヤード作業を考慮した幹定：島田宏行（宮小牧工業高等専門学校）ら
9:45	S3-4 フィリピンにおける現場フォレスターの認識：栗山アツコ（久留米大学）	討論・調整	討論・調整			討論・調整	K-4 森林水系の高精度抽出に向けたDEM解像度・新処理・アルゴリズムの検討：瀬川瑞己（東京農工大学大学院）ら
10:00	S3-5 ベトナムにおける現場フォレスターの認識：岩永青史（名古屋大学）	F-4 サワラとヒノキの乾湿環境における適応的遺伝子浸透の可能性：堀部真生（岐阜大学）ら	M-4 北海道東部のアカエゾマツ林における地表更新の成否と土壌病原菌の関係：岩切鮎佳（東京大学大学院）ら			J-14 一ツ瀬川上流部における崩壊地の様相回復予測モデルの構築：篠原慶雄（京崎大学）ら	K-5 マレーシア・サラワク州における森林モデル・機械学習によるシナリオ解析：大場真（東北工業大学）ら
10:15	S3-6 インドネシアにおける現場フォレスターの認識：志賀薫（国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所）	F-5 ヒノキ科3種のゲノム解読により見出された染色体構造変異：白澤謙太（かずさDNA研究所）ら	M-5 日本でユカリ類の商業上に見出されたCalonectria属菌とその病原力：坂上大真（東京大学）ら			J-15 2024年熊鷹半島地震後に見出された森林での幹折れの実態把握：出村航大（宇都宮大学）ら	K-6 シミュレータを用いた森林条件に対する自己位置推定精度の検証：中込広幸（森林総合研究所）
10:30		F-6 プナ科植物スダジエとカクミガシのハプロタイプレベルでのゲノム解読：實下愛梨（九州大学）ら	M-6 枯損状況の異なるカラマツ類幼樹木における感染シラカバ属菌の違い：和田尚之（北海道立総合研究機構 林業試験場）ら			J-16 火山灰降下の影響をうけた茨城県常陸太田市の花間岩丘陵地における土層発達：渡邊卓磨（森林総合研究所）ら	討論・調整
10:45		討論・調整	討論・調整			討論・調整	K-7 ニュージーランドのワインシアシステムと日本型普及モデルの検討：佐々木尚三（KITARINラボ）ら
11:00		F-7 クローン検定林のレガシーデータによる空間自己相関を考慮した樹高成長評価：江島淳（佐賀県林業試験場）	M-7 木綿による打音の異質はどのような特徴を反映しているか：広葉樹高成長評価：江島淳（佐賀県林業試験場）での事例：山下聡（森林総合研究所）ら			J-17 UAVで観測した台風風倒被害分布と気象・地形対応CFD解析との比較評価：米康充（島根大学）	K-8 Towards Data-Driven Modeling of Cut-to-Length Harvester Productivity in Japan：LahrsenSteffen（東京大学）ら
11:15		F-8 異なる日長下におけるスギ3系統の成長の応答及び地上部/地下部比の変化：黒澤陽子（森林総合研究所林木育種センター）ら	M-8 交配型遺伝子を用いたカラマツの先枯病菌の種特異的プライマーの開発：服部友香子（森林総合研究所）ら			J-18 発表取り消し	K-9 ガス化CHPに適したチップ作成のための切削装置の要件：岩岡正博（東京農工大学）ら
11:30		F-9 第2世代精英木（サガノスギ）の候補台木のシュートフェノロジー：栗田晴矢（佐賀県林業試験場）ら	M-9 鹿間床の再構築によって誘導された疎水・親油性の発現—油吸着材への応用—：陶山大志（島根県中山間地域研究センター）			J-19 森林斜面における土壌乾燥の違いを決める土地・土性条件の数値的検討：関口寛人（森林総合研究所）ら	K-10 ヒノキ伐倒木の倒伏速度および慣性モーメント：松本武（東京農工大学大学院）
11:45		討論・調整	討論・調整			討論・調整	討論・調整
12:00							
12:15							
12:30		ポスター発表のコアタイム（対面会場） （高校生ポスター：12:00-14:00） 〔一般ポスター：13:00-14:00〕				ポスター発表のコアタイム（対面会場） （高校生ポスター：12:00-14:00） 〔一般ポスター：13:00-14:00〕	
12:45							
13:00							
13:15							
13:30							
13:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月18日午後 1/2

会場	Leo Esaki メインホール	101	中ホール200	201A	201B	202A	202B
開始時刻	学会企画3	植物生態	造林2	林政4	経営4	風致・観光2	動物・昆虫2
14:15	高校生ポスター表彰式	W-1 タケササ類―斉開花を予測し待ち伏せする―長野県スズダケの開花前年動向へ：小林慧人（森林総合研究所関西支所）ら	E-10 ニホンジカ不妊好性早生樹「アブラギリ類」の可能性：大場孝裕（静岡県）	A-23 都市住民の森林への関与意欲からみた都市と農村連携による森林整備の方向性：石佳凡（早稲田大学）ら	D-26 森林薄に頼らない森林管理：メッシュデータによる森林情報管理の試み：村上拓彦（新潟大学）ら	B-10 沖縄本島における緑化樹木生産の現状：監場将司（琉球大学）ら	L-10 樺木林業が里山林の生物多様性に与える影響の考察：西本屋美（三井共同建設コンサルタント株式会社）ら
14:30		W-2 温帯林における木本性つる植物の増加に対するクローン繁殖と擾乱の役割：森英樹（森林総合研究所）ら	E-11 異なる土壌条件に植栽した同一家系のセンダングサの成長について：柴田寛（鳥取県林業試験場 森林管理研究室）	A-24 熊野古道伊勢路における標識や文化財等の管理状況：平山和虎（東京大学）ら	D-27 リモートセンシングによる森林ゾーニング実証－財産区での適用－：丸山拓見（精密林業計測株式会社）ら	B-11 輪南用幹の資源確保を目的としたカシ類人工林の協働管理の取組み：若山学（奈良県森林技術センター）ら	L-11 営業性害虫ヤノメガタシビタマムシの成虫の発生に早期発見が与える影響：大澤正嗣（山梨県森林総合研究所）ら
14:45		W-3 ナラ枯れによる林冠消失が他樹種の林冠拡大に及ぼす影響：奥山雅隆（東京農工大学）ら	E-12 ウルシ林の最多密度と樹幹表面積一定則の検証：真坂一彦（若手大学）ら	A-25 森林関連ガイドアンケート結果から探る生態系サービスビジネス化の可能性：高橋卓也（滋賀県立大学）ら	D-28 近自然型森林管理における先端デジタル技術の活用可能性：鄭送求（東京大学）ら	B-12 林内作業道に関する人類学的研究：門馬凌汰（埼玉大学）	L-12 ピロウドカミキリのユズリハ被害：江崎功二郎（石川県農林総合研究センター林業試験場）ら
15:00	大学見学ツアー（筑波大学 →17:00）	討論・調整	討論・調整	A-26 発表取り消し	討論・調整	B-13 地域交流が変える山策・きのこ採取活動とコロナ禍の影響：古川拓哉（「国研」森林研究・整備機構森林総合研究所）ら	L-13 カシノアガキイシムシの忌避によるナラ枯れ防除：小林正秀（京都府森林技術センター）
15:15		W-4 気候変動に伴う中部地方のブナ林3樹種における開芽時期の変化と将来予測：水谷瑞希（京州大学）	E-13 農地跡地での膝載木の成長と土壌の浸透能：園田英夫（鳥取県林業試験場）	討論・調整	D-29 生物多様性保全を考慮した森林ゾーニングの試行：光田靖（宮崎大学）	討論・調整	討論・調整
15:30		W-5 気候変動下における群集温度指標値と機能群別バイオマスの変化：金森由紀（若手大学）ら	E-14 九州産スギの品種の高木と産地の関係：品種試験地45年目の結果：榎木勉（九州大学）ら	A-27 現代の山村地域における子どもの遊びの実態：長野県下水内郡栄村を事例に：矢部瑞季（東京農工大学）ら	D-30 古い空中写真による時系列3Dモデルの作成 一能登地城における事例－：小谷英司（森林総合研究所）ら	B-14 森林被害頻度と生きがい、幸福感・自然への関心の意向との関連：SLEPT Study：森田えみ（「国研」森林研究・整備機構）ら	
15:45	閉会式（学生ポスター賞授賞式）	W-6 アンデス・アマゾン地域における山地森林生態系の森林劣化評価：宮本和樹（「国研」森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	E-15 ヒノキ人工林における間伐強度の違いが20年後の林床植生に及ぼす影響：市来智明（京都府立大学）ら	A-28 中山間地域における高齢者の買い物・通院支援はどうあるべきか：高野涼（弘前大学）	D-31 機械学習を用いた層級の島町における森林・農地変遷の時系列解析：中條裕太（島根大学）	B-15 都市・都市近郊・地方域住民の森林への関心、訪問頻度に関する比較：小田龍聖（森林総合研究所）ら	
16:00		W-7 発表取り消し	討論・調整	A-29 山形県内の有料わらび園の実態調査結果（第一報）：柴田晋吾（上智大学）ら	D-32 空撮データを用いたスギ人工林のクマ割き被害木の特徴抽出の検討：田和佑博（富山県農林水産総合技術センター）ら	B-16 都市緑地の経済価値評価：札幌市を対象としたヘドニック法による分析：森田真弥（北海道大学）ら	
16:15		討論・調整		A-30 国内の山地放牧の存続条件について―兵庫県東条郡を事例として―：藤井希美子（東京農工大学）ら	討論・調整	討論・調整	
16:30	閉会式（学生ポスター賞授賞式）	W-8 階層構造に着目したササ亜古型冷温帯成熟林における葉群の空間分布と変動：植田時（筑波大学）ら		討論・調整	D-33 スマート林業を用いた大学発スタートアップの山村課題への挑戦II：加藤正人（佐州大学）ら	B-17 i-Treeによる文化的価値評価のための3次元データを用いた景観解析：齋藤拓海（千葉大学）ら	
16:45		W-9 樹種によって異なる日本の森林の堆積有機物層の厚さ・量：真中卓也（森林総合研究所）ら		A-31 生成AI二重サンプリングによる県議会議事録の森林環境議与校論点構造解析：大森宏（東京大学）ら	D-34 発表取り消し	B-18 最久限の有する生態系サービスに対する住民の選好：豆野純太（北海道大学）ら	
17:00		W-10 東陽的なシカ採食影響下での間伐が林床植生の機能的役割に及ぼす効果：谷脇徹（神奈川県自然環境保全センター）ら		A-32 都道府県による森林環境議与校の使達の定量分析：稲川武（東京大学）ら	D-35 バイオマス燃料製造を主業とした林業の収益性分析：小川尉大（芝浦工業大学）ら	B-19 クマ出没急増をめぐる一般市民の認識と対策への評価：佐子康（北海道大学）ら	
17:15	閉会式（学生ポスター賞授賞式）	W-11 佐渡島の天然スギの成長特性―多雪山地間での比較から―：梶本卓也（新潟大学）ら		A-33 近代秋田地域の国有林経営における森林保護と労働力確保：芳賀和樹（法政大学）	D-36 ネイチャーポジティブな未来へ：森林生態系サービスのシナリオ分析：山田祐亮（国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	討論・調整	
17:30		討論・調整		討論・調整	討論・調整		
17:45							
18:00	閉会式（学生ポスター賞授賞式）						
18:15							
18:30							
18:45							

研究発表題目（企画シンポジウム・公募セッション・部門別口頭発表）3月18日午後 2/2

会場	中ホール300	303	304	402	404	405	406
開始時刻	S5 地域フォレスター	遺伝・育種2	微生物2			防災・水文3	教育2
14:15	S5-1 日本型フォレスター再考：森林・林業再生プラン時から状況変化を踏まえて；相川高広（PwCコンサルティング合同会社）	F-10 クリーンチャーチ1粒播種によって1年でコンテナ苗を育苗する技術；中川昌彦（北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場）	M-10 Light-mediated responses in ectomycorrhizal fungi；コンシワッタナーボグタム（東京大学）ら			J-20 航空機LIDARによる森林火災焼損範囲の抽出；高貫潤一（エアロトヨタ株式会社）ら	C-4 一般向け森林学入門書の制作の試み；園原和夏（日本大学）ら
14:30	S5-2 民間フォレスターの必要性：小森嵐樹（フォレスターズ株式会社）	F-11 カラマツ種子の成熟時期の変異；生力正俊（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター北海道育種場）	M-11 Comparative Single-Reference and Graph Pangenome GWAS of Ectomycorrhizal Formation in <i>Cenococcum geophilum</i> ；孔徳寧（東京大学）ら			J-21 林野火災が斜面・流域スケールの水・土砂移動に与える影響；思田裕一（筑波大学）ら	C-5 サイエンスカフェは進化する；崎尾均（新潟大学）
14:45	S5-3 片品村での活動について；黒沢秀基（フォレスターズ株式会社）	F-12 青森県十和田市のカラマツ採種園における採取時期別の種子の発芽特性；中島剛（青森県産業技術センター林業研究所）ら	M-12 Identification and functional analysis of long non-coding RNA involved in ectomycorrhizal formation in <i>Populus tomentosa</i> ；楊榮薇（東京大学）ら			J-22 愛知県豊田市のヒノキ人工林における間伐前後の水通量機能の変化；フアラナクモイン（東京大学）ら	C-6 鳥の鳴き声学習Webツールの開発と評価；種別別能力と意識は変化する？；小川結衣（筑波大学）ら
15:00	S5-4 現場に寄り添う森林づくりの技術；小山幸弘（長野県林業総合センター）	討論・調整	M-13 Functional exploration of candidate genes related to ectomycorrhizal formation in <i>Populus tomentosa</i> ；劉穎（東京大学）ら			J-23 土壌水分観測による林内水収量の推定と間伐の影響評価；岩本樹里（筑波大学）ら	討論・調整
15:15	S5-5 5年目に入った奈良県独自のフォレスター制度について；藤平拓志（奈良県庁）	生理	討論・調整			討論・調整	C-7 森林環境教育プログラムが子どもに与える効果；田村大樹（東京大学大学院）ら
15:30		G-1 Flavonoid遺伝子を欠損させたゲノム編集スギの光合成特性の解析；宮澤真一（森林研究・整備機構 森林総合研究所）ら	M-14 人工地盤と自然土壌に生育するイロハモミジに共生するAMF群集の比較；伊藤愛（東京大学大学院）ら			J-24 Transpiration Dynamics of Tropical Forestry Species under Varying Meteorological Conditions in Sabah, Malaysia；ナイナルアナシ（Universiti Malaysia Sabah）ら	C-8 東京大学演習林における多層的森林教育の実践と連携；李麗（東京大学）ら
15:45		G-2 樹木個体への力学的ストレスは呼吸増加による成長飽和をもたらすか；森茂太（山形大学）ら	M-15 環境条件の異なるヒノキ天然林と人工林のアーバスキュラー菌根群集；高瀬岡（東京大学）ら			J-25 遮断蒸発の主要メカニズムは飛沫蒸発；村上茂樹（森林総合研究所）	C-9 森林環境下における課題解決型体験活動の効果；山縣みる子（北海道教育大学岩見沢校）ら
16:00		G-3 越冬ツバキ花芽の凍結様式のMRIによる可視化；石川雅也（東京大学大学院）ら	M-16 屋久島の人工林と天然林のスギに関わるアーバスキュラー菌根菌の群集構造；松田陽介（三重大学）ら	映画上映会『越後-山に生かされた日々-』		J-26 紅葉シュートの雨水保持・排水特性における樹種間差異の実験的検討；南光一樹（東京農工大学）ら	討論・調整
16:15		G-4 秋施肥が養分状態のよいスギコンテナ苗の耐凍性に及ぼす影響；飛田博順（森林総合研究所）ら	M-17 秩父山地の亜高山帯林におけるイワダレコケ茎葉体上の菌類群集の遷移；金子祐未（東京大学大学院）ら			討論・調整	C-10 森林と有機的に繋がる体験プログラムの検討 ―森林レンタルの活用を通して；中村和彦（東京大学）ら
16:30		討論・調整	討論・調整			J-27 Effects of forest stand structure on throughfall erosivity and model development in Japanese cypress plantations；全慧麗（九州大学）ら	C-11 自然観察のあり方を理解する森林環境教育プログラムの効果；山田亮（北海道教育大学）ら
16:45						J-28 森林回復流域における年蒸発散量変動に外的環境要因が及ぼす影響；浅野友子（東京大学）ら	C-12 ケニア社会林業プロジェクトの成果と教育効果の検証；中山龍之（岡山理科大学）
17:00						J-29 林内における雨滴径の動態変化に着目した遮断蒸発メカニズムの検討；鈴木梨花（宇都宮大学）ら	C-13 世界遺産の森の価値を学び、伝える解説活動のあるべき姿；大島順子（琉球大学）ら
17:15						J-30 モンゴル森林―草原エコトーンにおける永久凍土活動層と植生土壌構造の関係；豊村佳祐（名古屋大学）ら	討論・調整
17:30						討論・調整	
17:45							
18:00							
18:15							
18:30							
18:45							